



だより

— つながれ ひろがれ —

Vol. 114

編集 環境パートナーシップちば
代表 桑波田 和子
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(一財)千葉県環境財団業務部
環境活動支援課気付
電話 043-246-2180
FAX 043-246-6969

SDGs の目標達成に向けて

ESD-J 共同代表 重 政子



国連は、「誰も置き去りにしない—leaving no one left behind」を合い言葉に2030年までに、SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) として、17のゴール(最終目標)と169のターゲット(目標)を定めました。

「将来世代のニーズを損なうことなく現在世代のニーズを満たすこと」という持続可能な開発の概念は、1987年ブルントラント委員会「Our Common Future」で打ち出され、その後の地球環境保全のための取り組みの重要な道しるべとなってきました。そして、1992年、「アジェンダ21」を策定、持続可能な開発を実現するための具体的な行動計画、持続可能な開発における教育の重要性が確認されました。

更には、1997年環境と社会に関する国際会議「テサロニキ宣言」(ギリシャ)において、環境教育を「環境と持続可能性のための教育」と表現し、持続可能性を扱うことは、多様な学問分野や制度を一つに集めるようなアプローチが必要と言及しています。2000年に「ミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)」が採択され、MDGsは「極度の貧困と飢餓の撲滅」、「環境の持続可能性の確保」など8つのゴールと18の開発目標等から構成され、世界の福祉目標を提示しました。2002年ヨハネスブルグサミットにて「ESDの10年」を日本が提案し、第57回国連総会にて採択されました。

持続可能な開発を実現するために、各国政府が「ESD」を教育戦略・教育プログラムに盛り込み、国家、地域、地域共同体、国際機関、NGO等あらゆるステークホルダーの連携を強化することを求めました。また「個人の態度の変化」から「社会的、経済的、政治的構造およびライフスタイルの転換」へと教育の目的も広がってきました。

ポストMDGsとして打ち出されたSDGsですが、MDGsの評価では、途上国の貧困と飢餓・公衆衛生などの課題の結果に主眼が置かれています。数字目標上、達成できたことも多いですが、中味を掘り下げてみると、例えば、貧困の数は減った、安全な飲み水の確保はできた等、結果の数字は上がっているようにみえても、国内の地域による格差が大きいのに、一国として平均値を基にするとそこに隠された問題・課題は見えなくなってしまっていること、途上国の課題の要因は先進国に起因していることが多いことが自明の事実とした反省点として残ります。このMDGsの成果を基に3年間もかけて700万人ものマルチステークホルダーにコンサルテーションを行なってSDGsは策定されたとのことでした。

それ故にこの17の目標の一つ一つを、各層が360度の視野で俯瞰(ふいかん)し、不可分性・統合性で関わるのが目標達成の重要なカギになります。

SDGsは、トランスフォーマティブ(変革的)に捉えないと、もはや間に合わないとして、1人1人が、チェンジエージェントになることを呼び掛けています。地球上の誰をも包括して持続可能で幸せにするにはどうしたらよいか、あらゆる分野、あらゆる立場の個人が様々な課題を Think globally Act locally で捉え、ESDの“価値”を理解し、その“力”を育み、持続可能な社会づくりの担い手になることによって、SDGsの目標達成が可能になると思っています。

「レスポンシブル・ケア」ってなんだろう？

～ 対話集会に参加して ～

(一社) 千葉県環境保全協議会 斉藤 則俊

先般2月9日に「第11回レスポンシブル・ケア(RC)千葉地区地域対話集会」が開催されました。当日は小雨の降る中、普段はなかなか訪れることのない工場見学も行われ、参加者への理解もより一層深まったようです。その後、「企業の環境保全と保安防災」をテーマとする対話集会があり参加しました。

この「レスポンシブル・ケア(Responsible Care)＝責任ある配慮」は、1985年カナダで誕生し、その後世界的な広がりを見せ、日本では1995年に日本化学工業会内に発足後、現在はRC委員会として全国15地域で活動しているそうです。

RC活動とは、化学工業界においてそれぞれの企業が自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動です。各地区では地域の行政や住民の方々を交えた地域大会を開催しています。

本対話集会の中で最も話題になったのは、「工場は安全か？」という疑問の声でした。東日本大震災の教訓からも大規模地震や津波への備え、発生した場合の対応に問題はないのか？ などなど、多くの関心があり、企業や行政がそれぞれの立場で懇切に説明し、十分に納得できることが分かり

ました。

この対話集会を通して知り感心したことですが、企業はRC活動として普段から地道な活動しております。定期修理時の地域説明や意見交換会、工場見学会や学習教室の開催、また地域ボランティア活動など、開かれた企業として積極的に活動を展開しています。

このような普段からのRC活動と継続があってこそ安全・安心な企業として地域に定着し、発展していくものと思います。皆さんも次回のRC大会へ参加してみたいはいかがでしょうか。



未来のために、いま選ぼう。

COOL CHOICE (賢い選択)

エコメッセちば実行委員 谷合 哲行

ようやく一般的になってきたキャッチフレーズですが、ちょっと関心をもってもらえるだけで、だれでも参加できる行動です。

照明やエアコンの使い方を工夫したり、節水を中心掛けたりすることは既に多くのご家庭で実践されている省エネ対策ですね。でも、使っている機器自体が旧式だといくら使い方を工夫してもベースとなる電気消費量を減らすには限界があります。旧式のカス給湯器やガソリン車では、使い方の工夫で減らせる二酸化炭素排出量もあまり多くはありません。

一方、工業製品の省エネ技術は急速に進んでいて、製造時期が5年ほど違えばそれだけで基本消費電力量は20～50%も減っています。家電製品の交換時期10年程度を目安にしている家庭が多いと思いますが、買い替えだけで、30～60%

近い省エネの実践につながっているのです。さらに、そのときには価格だけでなくその製品の省エネ性能や製造過程での二酸化炭素排出量などの環境負荷も考慮した”COOL CHOICE (賢い選択)”をしてください、というのが今回の国民運動なのです。

今あるものの使い方の工夫で対処しようとしてきた省エネから、一歩進んだ省エネ・低炭素生活への切り替えを狙った運動ですが、新しいものにも買い替えること自体に対する抵抗感もあって、今はまだあまり広がっていません。しかし2020年には、東京五輪が予定され、これに合わせた買い替え需要が見込まれています。53年前の東京五輪のときにはテレビが全国に普及し、家庭用電力消費量が飛躍的に増加しました。次の五輪に合わせて、みんなが”COOL CHOICE”をすることで、家庭用電力消費の削減だけでなく、新しい低炭素・低環境負荷な社会への切り替えにつなげていきたいですね。

定時総会開催のご案内

こぶしが満開となり、桜の開花が始まりました。皆さまのところはいかがでしょう？

4月には29年度が始まります。当会もおかげさまで、28年度をまとめ29年度へ歩むために、以下の日程で平成29年度（第21回）定時総会を開催します。

平成28年度の主な活動としては、「千葉県環境講座実施業務受託」「エコメッセちば実行委員会事務局」、「印旛沼流域環境・体験フェア、ナガエツルノグイトウに関する連携活動」などを展開してきました。

当会は、環境保全を推進するために、市民・企業・行政等と協働（パートナーシップ）で取り組むことを主な目的として平成9年6月に設立されました。今年は、設立後満20年の節目の年に当たります。

今後の方向として、①協働の推進、②環境学習の推進を主として、持続可能な社会へ向けて、環境を軸とした中間支援団体として歩みたいと思います。

総会では、以上のようなことを協議しますので、是非、多くの会員の方のご参加をお願いいたします。

第Ⅰ部は総会を開催し、総会後の第Ⅱ部は、交流会を行います。

交流会では、温暖化、里山、リサイクルなど環境学習を実施している団体の方のプログラム等をお聞きします。お薦めの環境学習プログラムをお持ちの方のご紹介もよろしくお願いいたします。

記

日時：平成29年5月20日(土)

13:30~16:00

場所：きぼーる会議室4（15階）

千葉市中央区中央4丁目5番1号

第Ⅰ部 総会 13:30~14:30

☆平成28年度事業・会計・会計監査報告

☆平成29年度事業計画(案)・予算(案)

☆平成29年度役員改選・新役員紹介

☆法人格取得検討委員会報告

第Ⅱ部 交流会 14:40~16:00

お問合わせ：090-8116-4633（環パちば携帯）

※ 返信ハガキを同封しています。出欠に関わらずご返信ください。

環境パートナーシップちば 特定非営利活動法人格の取得検討について

「環境パートナーシップちば」は、平成9年6月29日に、「環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連携のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的として」設立されました。

設立から20年間、任意団体として

- ①千葉県並びに県内自治体の環境学習実施やエコメッセちば実行委員会事務局、「印旛沼をきれいにする活動」等の会としての主体的活動
- ②県内の環境関連シンポジウムやフェアなどに参画
- ③会員勧誘及び会報「だより」発行などの情報活動

他を実施してきました。

現在、千葉県内には多くの環境に取り組む市民団体が、行政・企業・学校などと協働（パートナーシップ）を含めた取り組みを実践しています。さらに国連が決めた「持続可能な開発目標（現在と将来の両方のニーズを満たす開発：SDGs）」の実現に向け、今後、行政・企業・学校などと協働（パートナーシップ）を深めていく必要があります。

す。

そこで、当会もこれまでの活動を振り返り、今後の活動の軸を再検討し、特定非営利活動法人格の取得に向けた検討を行うことを、平成28年度総会で同意をいただいたのち、20回近い検討を行いました。

今後目指す法人は、20年前の設立時宣言の、「千葉県において、環境問題に意識を持ち、それぞれの地域で活動してきた私たちは、今こそ、市民指導型の環境ネットワークを築き、市民・行政・企業とのパートナーシップを目指す」を実践すべく、市民活動団体として社会的責任を持って、

(1)協働・中間支援団体としてのパートナーシップ活動 (2)環境学習などによる人材育成及び環境保全活動の推進 (3)だより発行等による情報活動 の3点を軸として運営することを考えています。

平成29年度総会で議案として提案いたします。皆様のご意見をいただければと考えていますので、よろしくお願いいたします。（文責 環境パートナーシップちば法人化検討委員会）

第6回印旛沼流域圏交流会

印旛沼流域圏交流会 小倉 久子

2017年3月18日に、酒々井町にある酒造り300年の歴史を持つ飯沼本家・明治蔵で、第6回印旛沼流域圏交流会『印旛沼・流域への想いを語り合いましょう!』を開きました。参加者は一般の方24名、学生さん10名の計34名でした。

第1部ではまず、虫明先生のご挨拶と健全化会議についての説明、河川環境課の角田副課長の健全化行動計画と「かわまちづくり」の紹介がありました。

続いての県政策企画課の久保田さんのお話では、印旛沼については「汚い」というネガティブ・キャンペーンが先行し過ぎている、もっと良いことを発信しようというご発言に、反省し、大いに納得しました。

酒々井町の小坂町長からは、酒々井というのは縄文の時代から栄えており、昔は陸のみち(街道)と水のみち(舟運)のクロスする要衝の地で、町内のどこを掘っても遺跡が出てくる歴史の街だというお話をお聞きできました。今は干拓のために沼本体からはちょっと遠くなってしまったけれど、酒々井からの印旛沼の眺めはとても良いそうです。

第2部はお酒の試飲から始まりました。レクチャーで飯沼本家の歴史を伺い、お米を削る(精

米)度合いでいろいろなタイプの日本酒ができることを学んだら、いよいよ、その違いを舌で実感する試飲です。3種類を飲み比べてみました。どれも、おいしい!

お酒を楽しみながらの意見交換ではあまり長い時間を充てることができませんでしたが、「印旛沼との関わりを通じて、私が一番やりたいこと(実現したいこと)」を付箋紙に書き、学生さんにはそれを発表してもらいました。

多くの方の想いから、「子ども・親子」「遊べる楽しい水辺」「もっと簡単にに行けるように」というキーワードが浮かび上がってきました。

このイベントは、これからいろいろな場所で楽しい企画で開催する予定です。次回もぜひご参加ください。



『東京湾環境学習交流会』

浦安三番瀬を大切にする会 事務局長 横山 清美

三方を海と川に囲まれた浦安にとって、水辺は重要な自然資源であり、市民の大きな財産です。浦安市民に最も近い海である三番瀬を市民が一体となって保全・再生に取り組み、ふるさとの海として後世につなげていくことを目標に、浦安三番瀬を大切にする会は、市民とともに三番瀬護岸の清掃や自然体験学習に取り組んでいます。

平成28年度は、東京湾の各地の活動を学ぶことが重要と考え、「東京湾の生き物のゆりかご三番瀬を学ぼう!」として、4月~12月には、東京湾の千葉県内の磯場・干潟を学習の場としている施設「谷津干潟自然観察センター、中央博物館分館海の博物館、ふなばし三番瀬海浜公園、盤洲干潟、行徳鳥獣保護区、東京湾大感謝祭」にお邪魔して、市民とともに自然体験を学ぶことができました。

そして2月5日(日)には、当団体が主催の「東京湾環境学習交流会」を開催しました。これまでともに学んできた東海大付属浦安中高サイエンスクラス(授業外学習プログラム)の取り組みを高校1年生徒さんからの報告後、「東京湾の環境学習」を風呂田利夫さん(東邦大学名誉教授)に講

演いただきました。「東京湾再生推進会議」が、快適に水遊びができ江戸前をはじめ多くの生物が生息する親しみやすく美しい海を取り戻し、首都圏にふさわしい東京湾を創出するため活動していることや、東京湾の干潟再生自然の歴史と現実の危機を科学的に学ぶ重要性など、多くのことに気付かせていただきました。

この後、パネルディスカッション「身近な海をどう活かすか」を東京湾官民連携フォーラム「東京湾の窓」プロジェクトチームが中心となり、芝原達也さん(谷津干潟自然観察センター)小山文大さん(大森海苔のふるさと館)野長瀬雅樹さん(認定NPO行徳野鳥観察舎友の会)野村英明さん(東京大学海洋アライアンス)島村嘉一さん(浦安市郷土博物館)山北剛久さん(浦安自然まるごと探検隊)今井学さん(浦安三番瀬を大切にする会)にお話しいただき、良い学び合いの1日となりました。



報告：千葉市新宿公民館における環境教育講座

「簡単省エネ！光熱費節約が地球を救う」

1月31日、千葉市新宿公民館主催講座として「簡単省エネ！光熱費節約が地球を救う」が開催され、広田・小倉・桑波田の3人が担当しました。昨年も同様の講座を行っているのですが、参加者は、全員が今回初めての方でした。

講座内容は、「①温暖化について ②省エネのお話 ③省エネかるたで我が家の省エネを話し合う」とし、まずは、地球温暖化の影響について知ってもらうために、全員で動画を見ました。

その後、どうやって家庭での省エネを行うのか、私の体験を交えつつ検針票の見方や環境家計簿の話もとりまぜて説明し、その具体的な方法を、省エネかるたで紹介しました。

「あら。水の節約金額、ものすごく高いのね。」
「わかってはいるのだけれど・・・夫にもこの講座を聞かせたい。」いろいろな声が飛んできました。かるたの内容をみんなでシェアしながら、それぞれの家の省エネについて話の花が咲きます。家族の協力が必要不可欠だという話、子どもが家から独立したのでアンペアダウンをしたという話もあ

りました。

日々の暮らしの中で、楽しみながら省エネに取り組む方が多いと実感しました。今は、「温暖化防止」よりも「温暖化に適応」が大切だそうですが、「省エネ生活に自分が適応」していくと、結果として温暖化防止につながります。省エネを進め温暖化防止につなげていきたいと思いました。

(文責：広田 由紀江)

「第17回こどもまつり」について
～新宿区立新宿リサイクル活動センターで開催～

地域の子どもたちに、お祭りを楽しみながら3R活動にふれてもらうことを趣旨としたイベントが、3月5日に行われました。多くの出展団体の協力を得て、晴天で暖かく穏やかな陽気の影響もあるのか昨年度よりも多く500人強の来場者を迎えることができました。

リサイクル活動センターや地域で活発に活動を展開している団体、地元自治会の方々、近所の日本語学校の学生さん、警察署のスクールサポーター、新宿区の清掃事務所や交通対策、環境情報センター。また段ボールや紙パック、ガラスのリサイクル協会など3R推進の主力組織陣の協力も徐々に増えてきて、パネル展示やクイズ、工作等の体験コーナーが毎回パワーアップしています。

また、小学校のダンスチームの発表や、科学実験、ジャグリングショー、バルーンアート、絵本の読み聞かせ、新宿エコレンジャーという5レンジャーのユニークなショーがステージであり、ボーイスカウトの焼きそば、福祉作業所の焼き菓子や小物の販売、

パンの販売もあり、一日中お祭りを楽しめます。こじんまりした建物の中に、出展者や来場者で大いににぎわいます。

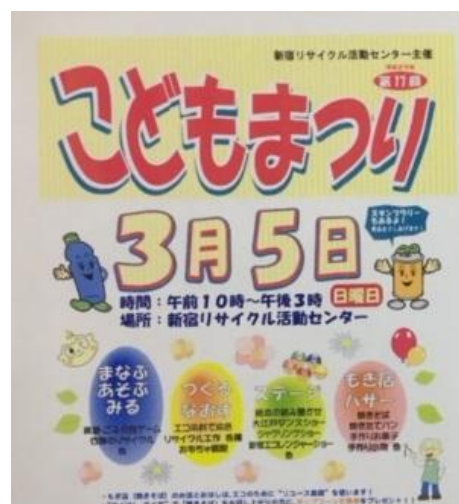
今回は初めて、お祭りの出し物の一つとしてフ

ードドライブの窓口を開き、福祉団体等への食品の寄付の受け付けも行いました。

こういったイベントも企画や準備の段階で、有機的、流動的な営みであること、新しく展開していくこと。また当日を迎え、終えてから反省点を思い返し、また次へと進めようと展望する。

無事お祭りが終了した直後、目は充血し睡魔に襲われるほど疲れ切ってはいますが、本当に心地よい疲れです。

私は、ここの一職員として何回かこのお祭りに携わってきましたが、回を重ねるごとに「噛めば噛むほど味が出る」という面白さを経験できています。来年も3月の第一日曜日に開催予定ですので、どうぞ遊びにきてください。(文責 中村明子)



手賀沼のナガエツルノゲイトウの駆除活動について

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 中野一宇

特定外来生物であるナガエツルノゲイトウは、隣接する印旛沼からの農業灌漑用水の導入により、亀成川を經由して手賀沼に侵入したとみられ、最初の発見は1998年ですが、その後広がり、今では手賀沼全体及び周辺に繁茂域が拡大しています。

最近の調査では特に繁茂が顕著な所として、大堀川河口と大津川河口及び手賀沼西南岸部でマット状の浮島が形成され、大きな所では横幅50mを超える群落となり、時に波浪によって揺れ、強風時には群落の一部が破壊され沼に流れ出る状況が確認されています。

これ以上の繁茂が拡大すれば色々な面で問題となるとの判断から、印旛沼での駆除活動を見学し、手賀沼における駆除実験を開始していますので紹介します。

第1は手賀沼中央の手賀沼公園栈橋横で2014年から始めた遮光シートによる抑制作戦です。確かに成長阻害効果はあると確認しましたが、水位の変化でシートが浮き上がったり、思わぬ所から芽が出ることも分かりました（環パだより第96号(2014年3月発行)をご覧ください)。

第2は2016年から始めた駆除作戦です。大堀

川河口の中洲の大群落に、市民、行政と、建設業界も一緒に協働体制で挑戦しました。建設業界の応援のおかげで、川床に降りた重機2台がナガエツルノゲイトウを刈り取り、大型クレーンがトラックに積み込み保管場所に輸送を繰り返し、非常に効率よく駆除作業ができました。機械作業の後は人手による駆除作業を行いました。

その後のフォローとして、重機で刈り取られたままの場所と、人手で根茎を十分取り除いた場所の、比較検証のための作業を継続しています。

実際の作業を経験し、協働で作業を分担することの重要性、また、この植物の力強さを改めて実感しているところです。



遮光シート被覆実験



ユンボによる除去作業

花見川ナガエツルノゲイトウの分布調査

2013年の台風26号で、千葉市横戸町の弁天橋下の川岸でマット状に広がっているナガエツルノゲイトウが流されました。

当会では、2006年に花見川でナガエツルノゲイトウの生息に気づいてから、2013年までの間、時々調査をしてきました。2017年2月6日に数年ぶりの調査を行いました。参加者は、千葉市役所、佐倉印旛沼ネットワークの会、当会の10人でした。

今回の調査は、瑞穂橋(花見川区役所近く)～花島橋(花島観音近く)約6kmを目視で行いました。当会のこれまでの調査区間は、主に花島橋から大和田排水機場でしたので、今回の調査間の比較はできませんが、生息している箇所は61カ所ありました。川岸に近づけない、竹藪で見えない場所もありましたので、正確な数値ではありませんが、かなり生息していることは明らかです。

調査区間には、瑞穂橋・(長作制水門)汐留橋・玄鼻橋・天戸橋・(天戸制水門)・花見川大橋・花島橋が花見川に架かっています。

調査の結果、ナガエツルノゲイトウは、汐留橋

～花島橋に生息していました。特に汐留橋と天戸橋の間では、マット状に大きく広がったナガエツルノゲイトウが数カ所あり、春になり繁茂すれば両岸が塞がってしまいそうな気がしました。

現在、八千代市内を流れる桑納川では官民協働でナガエツルノゲイトウの駆除を展開しています。花見川には大和田排水機場から流れてくる水と一緒にナガエツルノゲイトウも流され花見川に生息してしまっています。桑納川などでの駆除も重要ですが、花見川の駆除も地域の田んぼや川岸などへの拡散を考えると早めの対策が必要なのではと思いました。(文責：桑波田 和子)



汐留橋(長作制水門)に流れてきた、ナガエツルノゲイトウ



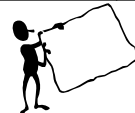
川面に広がるナガエツルノゲイトウ

県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 38 —

おききました！ この人・この団体

NPO法人南房総エコネットの紹介

理事長 前川鎮男



南房総エコネットは、2008年9月27日、南房総市が主催した市民環境大学の卒業生を中心に、学んだ知識を活用して、環境保全活動を実践することを目的に設立された。当初は、42名の会員がいたが、次第に減少して現在は13名。主な活動は、

- ・市民環境学習会
- ・市内環境ボランティア団体・個人のネットワーク
- ・環境保全課との協働・協力
- ・市内主要8河川の水質調査
- ・子どもたちによる水辺の生きもの観察会
- ・他団体との協働・協力
- ・視察旅行

これらは、2015～16年度、南房総市の「地域力を育むモデル事業」に採択されて「市民みんなで取り組む環境保全活動」をテーマに活動している。いくつかを具体的に紹介する。

①市民環境学習会：広く市民に環境問題に関する啓発と関心を促す目的で、毎年1回、南房総市環境保全課と共催で開催している。今年度は、2月4日、環境パートナーシップちばの小倉久子さんをお招きして「地球温暖化と私たちの暮らしー地球温暖化について、一緒に考えましょう」というテーマで話していただいた。

②市内環境ボランティア団体・個人のネットワーク：市内で環境保全に取り組むボランティア団体や個人は多くあるが、それらは相互の連携に乏しく、また市民の多くに知られていない。こうした現状を踏まえて市内で活動する環境ボランティア団体及び個人のネットワークを築くべくウェブサイト「環ボラネット」（正式名称：南房総市環境ボランティア団体・個人ネットワーク、URL：http://kanboranet.com）を立ち上げた。これによって、これまでバラバラに活動していた団体・個人をつなぎ、互いの情報交換や協働・協力を図って有機的な活動を促すとともに、このサイトを通して市民がそれらの情報をキャッチして活動に参加できるようにしている。

③市内主要8河川の水質調査：2010年度から市内主要8河川の上・下流において、5・8・11・2月の年4回、PH、COD、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、リン酸、DOの7項目についてパックテストで調べている。調査河川は、長尾川、瀬戸川、川尻川、三原川、丸山川、平久里川、岡本川、岩井川で、会員が各地区にいるという当会の特色を生かして調査を行い、河川の水質について現状を知り、監視をしている。

④子どもたちによる水辺の生きもの観察会：子どもたちが川に生息する生きものを捕獲して川に対して理解を深めるとともに捕獲した生きものを分類・同定により水質判定を行うことを目的とし、毎年夏休みに市内全小学校に呼びかけて丸山川上流の千葉県酪農のさと付近で実施している。今年度も7月31日に開催、過去最高の67人の参加があった。捕まえた生きものを分類、カワゲラ、サワガニ、ナガレトビケラ、ナミウズムシ、ヘビトンボ、コオニヤンマなどの指標生物が捕獲され、「水質階級Ⅰ」と判定された。

会が発足して8年、会員の減少・高齢化、財政難など、難題を抱えているが、地域の環境保全に少しでも役立てるようこれからも活動し続ける。

<問合せ>NPO法人南房総エコネット事務局
(担当)前川鎮男

TEL：0470-33-1171

E-mail：fwin2333@mb.infoweb.ne.jp



生き物を捕らまえる子どもたち

運営委員会報告

環パ通信【メルマガ】ご希望の方はアドレスを
info@kanpachiba.com にお知らせください。
(広報部)

2月運営委員会

日時 2月8日(水) 18:00~21:00
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・千葉県環境講座について
- ・環パ法人化検討委員会 ・だより 113号発送
- ・エコメッセちば実行委員会 2/2
- ・リーダー養成講座修了生の今後
- ・千葉県商工会議所販売士会 40周年記念式典 1/15
- ・花見川ナガエツルノゲイトウ調査 2/6 ・その他

【協議】

- ・だより 114号 ・29年度千葉県環境講座応募
- ・NPO 法人化検討委員会報告
- ・総会開催日の検討 5/20
- ・印旛沼の地域おこし交流会 3/18

3月運営委員会

日時 3月8日(火) 18:00~21:00
場所 船橋市民活動センター

【報告】

- ・千葉県環境講座実施報告書提出
- ・環パ法人化検討委員会
- ・エコメッセちば実行委員会 3/2
- ・加藤さん告別式 2/25
- ・印旛沼流域環境体験フェア市民部会 2/20
環境フェア開催日 10/28・29

【協議】

- ・総会内容の検討
- ・千葉県環境講座プレゼン 3/16
- ・NPO 法人化検討委員会報告

お知らせ

国連生物多様性の10年 「グリーンウェイブ2017」

- ◆実施期間
平成29年3月1日(水)~6月15日(木)
- ◆参加方法
①グリーンウェイブ活動計画づくり
②参加登録
③活動の実施
④活動の結果の報告
※参加登録及び活動の結果の報告
<http://greenwave.undb.jp/>
- ◆主唱
環境省、農林水産省、国土交通省、
国連生物多様性の10年日本委員会

第6回 成田エアポート ツーデーマーチ

5月はさわやかな新緑の季節です。景色や自然を楽しみながら、ウォーキングしてみませんか？

- ◆開催日時
平成29年5月20日(土)~5月21日(日)
- ◆コース
7kmから30kmまで、2日間で12のコースがあります。
お好きなコースをどうぞ。
- ◆主催
成田エアポート ツーデーマーチ実行委員会
- ◆申込方法等の詳細
<http://www.narita2day.com/>

環境パートナーシップちば元代表(平成15年度~21年度)加藤賢三さまが、平成29年2月18日ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政及び専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

入会申込先：(一財)千葉県環境財団
業務部環境活動支援課 気付
TEL:043-246-2180 FAX 043-246-6969
Eメール: info@kanpachiba.com
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座 00160-9-401872

<環境パートナーシップちば> 入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて(郵便振替)入会します

氏名			
住所	〒		
Eメール			
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円	団体2,000円	賛助会員5,000円